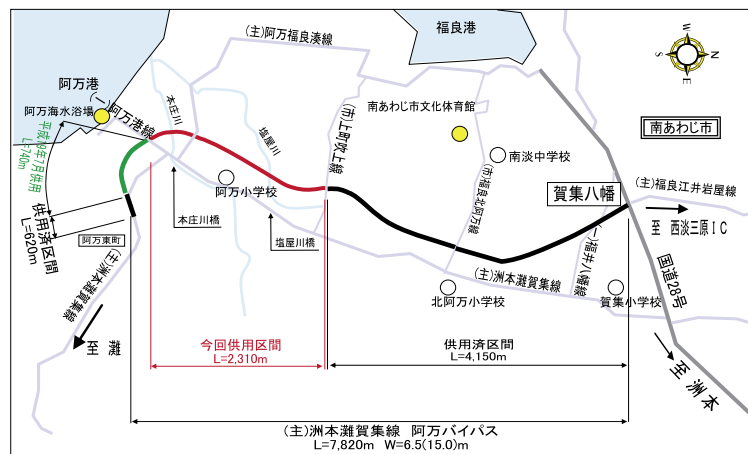




▲阿万バイパスの位置図

かねてから、県が進めていた阿万バイパスの道路工事がまもなく完了。三月下旬に全線開通します。

阿万東町から国道二十八号線までの区間は、人家が多く道路幅も狭いことから自動車が増え、交通事故も多く発生していました。そのため、平成六年度から延長約七・八kmのバイパス工事を五区間に分けて実施。このほど、残った最後の未供用区間の県道阿万港線から市道上町吹上線まで、二・三kmの整備が完成し、全線開通します。

今後自動車等がスムーズに通行でき、多くの効果が期待できます。

市議会議員と市民が適正な議員の定数について意見を交わす懇談会「議員定数を考える集い」が、一月二十五日から二月五日まで、市内五か所で開催されました。

これは、近年の世論に鑑み、議会も議員定数等調査特別委員会を平成十八年六月に設置し調査研究を重ね、定数の適正化等の検討を図ることを目的として行なわれました。

一月二十五日、三原市民センターでの集いでは、同委員会の蓮池洋美委員長が「議員は行政の監視並びに市民の皆さんと役所を繋げるパイプ役です。その定数二十八人が適正か検討しています。皆さん



▲三原市民センターで行われた議員定数を考える集い

んの意見を参考にさせていただきたい」と挨拶。

一月二十日に行われた専門家を招いて行われた講演会を、集約した内容のビデオ映画の後、他市の自治体の状況などを説明、様々な有意義な意見が交わされました。

また参加者アンケートも行っており、それらも含めて今後の判断の参考にします。

南淡B&G海洋センターの評価が、全国四百八十センターある中で、十七施設の一つである特Aに昇格しました。

B&G海洋センターは上位より特AからEまでにランク付けをされており、合併時はBランクでしたが、指導者会やボランティア、関係者の方々の工夫やご努力のおかげを持ちまして、まずはAランクへ、そして今回晴れて特Aランクへ昇格致しました。心より感謝申し上げます。

特に、子どもから高齢者の方々までの幅広い利用や様々な活動が認められました。B&Gの施設は、カヌー・ヨットなどの海洋性レクリエーションが行える艇庫、武道館や体育館、グラウンドやテニスコートがありますので、健康増進や人づくりの場として、市民の皆様により一層の活用をお願いいたします。

さて先日、上川少子化対策担当大臣から要請があり、勉強会を持ちました。(2頁参照)

私からは、行財政改革の荒波の中で、地域格差や地方の切捨てが叫ばれている今日、国においては将来を見据えた少子対策への重点配分並びに、懸命に努力する地方に対して支援すべきであるとお願ひいたしました。少子化は社会構造に大きな影響を及ぼし、国や地域を支える人材の不足に至ります。市民の皆様におかれましては、長期的な視野に立ち、尚一層のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

その後、総務省を訪問、平成十九年度特別交付税の確保のため、瀧野総務事務次官ほか、南あわじ市の施策支援について熱い思いを語り、お願ひしてまいりました。



▲B&G財団梶田会長(右下)から手渡された表彰状を手にする中田市長(左下)

ふれあい市長室

南淡B&G海洋センターの評価が特Aに昇格

南あわじ市長 中田勝久

阿万バイパス、まもなく開通

かねてから、県が進めていた阿万バイパスの道路工事がまもなく完了。三月下旬に全線開通します。

阿万東町から国道二十八号線までの区間は、人家が多く道路幅も狭いことから自動車が増え、交通事故も多く発生していました。そのため、平成六年度から延長約七・八kmのバイパス工事を五区間に分けて実施。このほど、残った最後の未供用区間の県道阿万港線から市道上町吹上線まで、二・三kmの整備が完成し、全線開通します。

議員の定数を考える集い

市議会議員と市民が適正な議員の定数について意見を交わす懇談会「議員定数を考える集い」が、一月二十五日から二月五日まで、市内五か所で開催されました。

これは、近年の世論に鑑み、議会も議員定数等調査特別委員会を平成十八年六月に設置し調査研究を重ね、定数の適正化等の検討を図ることを目的として行なわれました。

一月二十五日、三原市民センターでの集いでは、同委員会の蓮池洋美委員長が「議員は行政の監視並びに市民の皆さんと役所を繋げるパイプ役です。その定数二十八人が適正か検討しています。皆さん

男女が支えあう社会に

男女共同参画入門セミナーを開催



▲市の支援策を網羅した「子育て支援ハンドブック」

このほど南あわじ市では、結婚から子育てまでの支援事業が分かる「子育て支援ハンドブック」を五千部作成しました。

この冊子は、南あわじ市で子育てするうえで、役立つ情報を一元化し、分かりやすく編集しています。A五版二十六ページ。子どもの成長に応じて「妊娠が分かったら、赤ちゃんが生まれたら、乳幼

この冊子は、南あわじ市で子育てするうえで、役立つ情報を一元化し、分かりやすく編集しています。A五版二十六ページ。子どもの成長に応じて「妊娠が分かったら、赤ちゃんが生まれたら、乳幼

ピードで進んでいます。この問題解決には、男女が生き生きと暮らし、支え合う社会をつくりださなくてはなりません。このセミナーで学んだことを地域づくりに役立ててください」と挨拶をしました。

その後、県立大学の勝木洋子教授による「自分らしく生きる」と題しての講演が行われ、受講生は熱心に聞き入っていました。

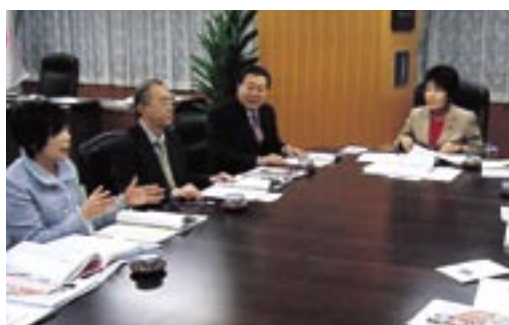


▲第1回目の男女共同参画入門セミナー



▲左から中田市長、上川大臣、宮本課長、喜田部長

南あわじ市の少子化対策の取組みについて説明を受けたこと、上川陽子少子化対策・男女共同参画担当大臣から要請を受け、一月二十三日、東京・霞ヶ関内閣府大臣室で、中田市長のほか喜田健康福祉部長、宮本少子対策課長が南あわじ市の少子対策事業全般の取組みについて説明しました。



▲南あわじ市からの説明を聞く上川大臣(右)

上川大臣から好評価

南あわじ市の少子対策を説明

南あわじ市の少子化対策の取組みについて説明を受けたこと、上川陽子少子化対策・男女共同参画担当大臣から要請を受け、一月二十三日、東京・霞ヶ関内閣府大臣室で、中田市長のほか喜田健康福祉部長、宮本少子対策課長が南あわじ市の少子対策事業全般の取組みについて説明しました。

南あわじ市の総合的な少子対策事例を説明したうえで、全国的な取り組みをどう進めるか、市の成果がどう発揮されるかなどを意見交換しました。

本市の「少子対策推進本部」「少子対策課」の設置や、結婚促進・定住促進・子育て支援・男女共同参画推進などの先進的な取り組みについて、大臣は「他の自治体にも弾みになる。各自自治体に少子化対策を進める部局の設置を求めていきたい」と話され、市の取組みを評価いただきました。